



**編集・発行**

地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター  
大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1  
TEL:072-957-2121  
FAX:072-958-3291  
HP:http://www.ra.opho.jp  
E-mail:kokyucen@ra.opho.jp

**今年のインフルエンザは？ 感染症センター長 松本 智成 (まつもと ともしげ)**

今年ももうすぐ年末を迎えますが、今年のインフルエンザの話題は、新型が再び猛威をふるうかということと、新しい抗インフルエンザ薬の登場でした。

今年のはじめは、新型インフルエンザの第2波がいつ到来し如何に備えるということが我々の関心事でありましたが、現時点では新型の発生件数は少なく、新型よりも、A香港型が多いようです。しかしながら、新型は数から言うとA香港型の次に認められていること、ならびに韓国人の女優がローマでの映画祭から帰国直後に新型インフルエンザで亡くなるなど、油断はできません。季節性インフルエンザが主に上気道で増殖するのにたいして、新型インフルエンザは肺でも増殖する事が明らかになったからです。

明るい話題としては、今までは、外国産しかなかった抗インフルエンザ薬に国産薬が2つも加わった事です。一つは、点滴で投与するラピアクタ、もう一つは吸入するイナビルです。どちらも一回投与で済みますので、飲み忘れの問題がありません。



新型インフルエンザが蔓延した時、日本人の死亡者が海外に比べて有意に低かったのは、積極的な抗インフルエンザ薬の投与と言われていました。

新型インフルエンザが肺で増殖することが判明したこと、A香港型と新型インフルエンザが迅速検査で区別できないこと、抗インフルエンザ薬がウイルスの排出を防ぎ感染拡大を防ぐ可能性があるというデータから、今まではインフルエンザとわかったら投薬無しで自宅安静を奨励することから、日本感染症学会が推奨するように、抗インフルエンザ薬投与が禁忌でなければ積極的な抗インフルエンザ薬投与と自宅安静が、インフルエンザ治療の標準になるかもしれません。

ただ、一番重要なのはうつらない、うつさないことです。標準予防策をしっかりとしましょう。

**病理診断科の仕事**

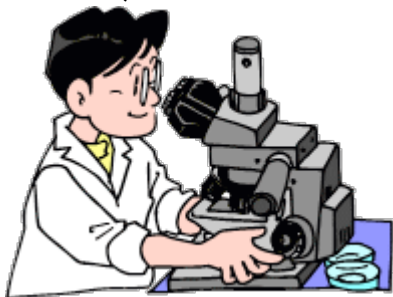
**病理診断科医長 沖村 明 (おきむら あきら)**

病理診断科の仕事は、病理組織診、細胞診および病理解剖です。病理組織診は、体の一部の細胞・組織を採取しそれが良性なのか悪性(癌(がん))なのかを病理専門医が診断します。例えば胃内視鏡や気管支鏡で粘膜の一部を採取し、それが癌であるか否かを診断します。

病理解剖は病気で亡くなった方の死亡の原因を調べます。癌で亡くなった方であれば癌の原発巣(癌がはじめにできた部位)、転移巣(癌が原発巣から離れた部位に飛んで大きくなること)があるかないか、治療として行われた抗がん剤や放射線治療の効果などを調べ、死因を推定

し、また今後の患者さんの治療方針に 寄与することとなります。

最後にあまり聞き慣れていないと思われる細胞診について説明します。細胞診は剥離細胞診と穿刺吸引細胞診に大別されます。剥離(はくり)細胞診は、気管支、子宮頸部(膣に近い子宮の部位)、膀胱など表面から剥れ落ちた細胞を採取します。穿刺吸引細胞診は病変部に針を刺して皮膚をほとんど傷つけずに細胞を採取します。



いずれの検査も病変部が良性か悪性かを調べることができます。診断は細胞検査士が癌を含めた異常な細胞を見つけ出し、細胞診専門医(病理専門医)が癌か否かを診断します。細胞診は材料の採取が比較的容易で患者さんの負担が少なく、そのため複数回の検査が可能であることなどの利点があり近年非常に重要視されています。そしてその簡便さから細胞診は癌検診に多く利用されており、癌の早期発見に役立っています。

### 12月の教室案内

- |           |                 |             |
|-----------|-----------------|-------------|
| * カンガルー教室 | ● 12月1日・15日・22日 | 午後1時半～第1会議室 |
| * 喘息教室    | ● 12月16日        | 午後2時～ 第2会議室 |

### 「乳がん総集編」の巻

放射線科 診療放射線技師  
マンモグラフィ認定技師  
吉田 絵未 (よしだ えみ)

街の街路樹が華やかなイルミネーションに彩られ、あちらこちらでクリスマスソングが奏でられる12月、すっかり冬のらしい気候になりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか？



この冬は夏とは打って変わって、厳しい寒さに見舞われそうです。また、インフルエンザも流行の兆しを見せていますので、うがい手洗いをこまめにして体調をばっちり整えてクリスマスとお正月を迎えましょう！！

さて、この「かわらばん」の裏面をお借りして1年間に渡りお送りしてきました「放射線科からこんにちは」シリーズも今月で最終回となりました。今シリーズは乳がんスポットを当て、市民検診のシステムから撮影法・治療法などを簡単にご紹介してまいりましたが、皆様少しでも御自身の乳房に関心を持って頂けたでしょうか？

私はマンモグラフィ検査の担当は女性技師でなければ！という信念の基に放射線技師を志し、現在幸いにもマンモグラフィ検査を担当させて頂き、またこのような誌面を書かせて頂く機会を頂きました。記事を読んで頂いて、少しでも乳がんやブレストケアに興味・関心を持って頂けたなら筆者としてはうれしい限りです。この1年間拙い文章を読んで下さった読者の方々、かわらばん作成にご尽力頂いた方々に感謝をいたします。またお会いする日までごきげんよう！



## ハートギャラリーの紹介

緩和ケアの一環として取り入れられるアートセラピー。当センターでも、待ち時間を有効的に使い、少しでも憩いと安らぎを感じていただきたいという目的で「ハートギャラリー」を昨年の秋に開設しました。

ギャラリーは患者さんの目にとまりやすい1階と2階外来の廊下を利用しています。1階ギャラリーは、大阪府立大学の学生さん、病院職員やその家族の作品に続き、現在「LIS彩美会」（羽曳野市内在住の画家・秋月オサムさんが指導する教室）の方々の作品を展示しています。2階ギャラリーは、小児科が近いので、羽曳野支援学校の生徒さんの作品や小児科の年中行事の様子などを中心に展示しています。

秋月さんは、「病院はいろんな人の集まる場所。作品展示に適した空間があるのだから、その場所を提供すれば、出展したい人はたくさんいるはず。その人たちの発表の場にもなり、患者さんにも喜んでいただける。一石二鳥ですね。」と言われました。ハートギャラリーは、今後もオープンギャラリーとして、いろいろな方に作品発表の場を提供し、患者さんに潤いをもたらす交流の場として、運営していきたいと思っています。

## 12月1日は、世界エイズデーです。

当センターでも、エイズについての正しい知識を習得してもらうための啓発運動を行っています。正面玄関にクリスマスツリーを飾り、来院された方々にレッドリボンの飾りつけをしていただくようにしています。是非、お立ち寄りください。

